BIKEN

ワクチンスクエア

# Vaccine Square

VOL. 4

JANUARY 2026

第４回

## 予防接種のプロセスに潜む誤接種リスクと現場でできる工夫と対策

監修：国立健康危機管理研究機構（JIHS）
国立感染症研究所 予防接種研究部 第三室
森野 紗衣子 先生

## 年度内で定期接種が終了するワクチン

監修：医療法人社団嗣業の会
こどもとおとなのクリニック パウルーム
院長　黒木 春郎 先生

### 今号のPOINT

- 予防接種の現場では、日々の業務の中で思いもよらぬ「誤接種リスク」が潜んでいます。
- 接種プロセスのどこに間違いが起こりやすいのかを視覚的に示し、さらに実際に起こった誤接種の種類や頻度を整理しました。
- 日常診療の中で改めてリスクを意識していただき、誤接種防止につなげていただけますと幸いです。

Vaccine Square ｜ 第４回

# 予防接種のプロセスに潜む誤接種リスクと現場でできる工夫と対策

監修

森野 紗衣子先生

国立健康危機管理研究機構（JIHS）
国立感染症研究所
予防接種研究部 第三室

**すべての医療行為や治療薬において、安全性が確保されることが前提として求められています。とりわけ予防接種は、病気を防ぐために健康な人に行われる医療行為です。そのため、安全・安心な実施はより一層重要で、接種に伴う事故や間違いが起きた場合には、その衝撃は大きく、社会的にも重大な関心事となります。しかし実際に、接種間隔の誤りや接種すべきワクチンの取り違えといった事例が報告されています[1]。**

**こうした誤接種は、予防接種の効果が得られにくくなる可能性や、被接種者の健康被害を招くリスクがあります。また、報道によって医療機関への信頼を損ない、さらには接種率の低下につながるワクチン忌避（vaccine hesitancy）が広がる恐れもあります[2]。昨今では、SNSでの情報発信が当たり前となり、口コミが一気に拡散して医療機関の評価・機能を揺るがすこともあります。したがって、医療従事者が誤接種を未然に防ぐことは、被接種者の健康と安全を守り、ひいては医療、医療機関への信頼を維持するためにも極めて重要です。**

## 主な予防接種のプロセスと間違い事例、誤接種予防のための工夫[1)、3)]

※この方法が完全・必ず正しいというものではありません。各医療機関の実情に合わせた方法で確認することが望ましいです。

| | ワクチン管理 | 受付 | 予診・診察 | ワクチン準備・接種 | 接種後 |
|---|---|---|---|---|---|
| **予防接種のプロセス** | 有効期限、温度設定の確認（各電子添文で確認）、保管庫の温度記録の確認 | 母子健康手帳/予防接種手帳（予診票、接種券、電子カルテなど）の記録を確認 ★<br>・名前（フルネーム）・接種回数・間隔<br>・年齢/月齢　・ワクチンの種類 | ・受付内容を本人または保護者に再確認（ダブルチェック）<br>・予診者と診察者が異なる場合は、再確認<br>★に加え、体調（体温・予診票項目・接種可能かどうか判断 | 接種不適当者など）を確認し、以下のことを確認し、トレーにワクチンを準備。接種を行う<br>▶ ワクチン名・接種量・有効期限・希釈方法・外観<br>▶ 未使用の器具であること・針の種類、長さ、接続<br>▶ エア抜き　▶ 接種方法（皮下、筋注等）　▶ 被接種者<br>▶ シリンジに必要量のワクチンが充填されていること | ・使用済み接種器具を廃棄用の容器に入れる |
| **誤接種予防のための工夫**<br>POINT!<br>ダブルチェックと見える化 | ・有効期限をリストアップし、有効期限が近いロットは手前に置く<br>・有効期限、ロット番号が切り替わるメモをつける<br>付箋で目印<br>Lotが変わります<br>Lot.○○○○○○<br>Exp.2026.03.01<br>・補助電源が付いた冷蔵庫に保管する<br>**関連する間違い ❶❹** | ・母子健康手帳や予防接種手帳「なし」の接種は間違いのリスクのため記録は必ず確認する<br>・接種間隔が一目でわかるスケジュール表を受付付近に掲示する<br>予防接種スケジュール<br>・接種受付当日を起点として、代表的な必要接種間隔を遡った日付一覧を作成、前回接種日との比較に用いる（毎日更新）<br>**関連する間違い ❷❸❺** | ・必ず氏名はフルネームで確認する<br>・声に出して名前や年齢などを確認する<br>・ワクチンの種類と被接種者が一目で見えるメモを作成し、声に出して確認する<br>・年齢など予診票のチェックポイントをハイライトする<br>・予診票が混ざらないよう、識別しやすいファイルに入れる。兄弟受診時には色付きファイルを使用する（アラート標識）<br>**関連する間違い ❷❸❺❼** | 名前 ○○○○様　年齢 1歳0か月<br>予防接種日［1/24］<br>接種ワクチン［MR①みずぼうそう①］<br>単独受診時 透明ファイル<br>兄弟受診時 色つきファイル<br>・「1つのトレーには1セットのワクチンと接種器具」を徹底し、ワクチンの接種量と種類、有効期限など見える化する（見えやすいよう、ワクチンの空き箱を活用する）<br>・ワクチン種類、量ごとに色を変えたカードを使用する<br>・溶解作業は接種直前に行うか、溶解不要の製剤（プレフィルドシリンジ製剤）を使用する<br>・ワクチンごとの接種量・接種方法を目に付くところに貼っておく<br>BCG 経皮<br>水痘<br>日本脳炎 0.25mL（3歳未満）<br>**関連する間違い ❸❹❺❻❼** | ・使用済み廃棄ボックスなどを近くに置き、すぐ廃棄する<br>・リキャップしない<br>**関連する間違い ❽**<br>次回の接種に向けて<br>カルテ、母子健康手帳に接種状況を記録し、母子健康手帳には次回接種時期がわかるメモを貼る<br>次回の接種予定は<br>2026年5月12日（10：00）です<br>☑ B型肝炎　1回目 2回目・3回目<br>☐ 肺炎球菌　1回目・2回目・3回目・4回目<br>☐ 5種混合　1回目・2回目・3回目・4回目 |

### このような誤接種が発生しています

**間違いのカテゴリ**

令和3年度の報告状況
%は全体に対しての割合、
（）は10万回あたりの率

**間違いの具体例**

| ❶ 不適切な保管 | ❷ 接種間隔の間違い | ❸ 不必要な接種 | ❹ 期限切れワクチンの接種 | ❺ ワクチンの種類の間違い | ❻ 接種量の間違い | ❼ 対象者誤認 | ❽ 血液感染を起こしうる間違い | その他（対象年齢外の接種、溶解液のみの接種など） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0.37%（0.01） | 第1位 57.72%（8.03） | 第2位 14.83%（1.60） | 第3位 5.14%（0.66） | 第4位 3.89%（0.33） | 第5位 1.43%（0.26） | 第6位 1.13%（0.16） | 0.12%（0.02） | |
| 医療用冷蔵庫の故障による温度管理不備<br>一度吸引して冷蔵庫に戻したインフルエンザワクチン（バイアル）を2日後に接種<br>→正しくは最初の吸引後24時間以内に使用 | B型肝炎ワクチン 1，2回目を生後2，3か月に接種後、生後4か月で3回目を接種した<br>→正しくは、1回目から139日以上あけて接種<br>注射生ワクチン同士を27日以上あけずに接種 | 母子健康手帳の接種歴に誤りがあり、既接種者に接種した | 接種予約がキャンセルされたため、予定より保管期間が延びてしまい、次の接種時にワクチンの有効期限が切れていることに気づかずに接種してしまった | 来院した保護者から「2種混合ワクチンを接種してください」と言われ、本来DTトキソイドの予定であったが、MRワクチンを接種してしまった | 2歳の子どもに日本脳炎ワクチンを0.5mL接種した<br>→正しくは3歳未満は0.25mL | 兄弟に接種する際、兄用にAワクチンとBワクチンを準備し、弟用にAワクチンを準備していたが、間違えて兄にAワクチンを2回接種してしまった | インフルエンザワクチン接種時に使用済み注射器を別の人へ刺入してしまった<br>双子に対する2種混合ワクチン接種時に、一方に使用した注射器を誤ってもう一方に穿刺した | MRワクチン第2期の接種は年長児にするところを年中児に接種した<br>日本脳炎についてワクチンを溶解せず、注射液のみを接種した |


1）厚生労働省：定期の予防接種に関する間違いについて（令和元～3年度分）. https://www.mhlw.go.jp/content/001137401.pdf（2025 年 8 月閲覧）
2）MacDonald NE, et al.: Vaccine. 2015;33(34):4161-4.
3）予防接種における間違いを防ぐために　2025 年 4 月改訂版（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所予防接種研究部）

3月までが“最後のチャンス”

# 年度内で定期接種が終了するワクチン

## ～年明けは声かけに最適なタイミング～

「定期接種」には、大きく分けると対象年齢に達した時に接種するものと、その年度内に接種すべきものの2種類があります。前者は比較的忘れにくい一方で、後者は年度末（翌3月末）を過ぎると公費での接種機会を逃してしまうため、注意が必要です。

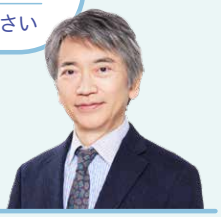
このような「年度内に接種するワクチン」は、小児を対象としたMRワクチンの2期とHPVワクチン、主に高齢者を対象に2025年度から始まった帯状疱疹ワクチンです。MRワクチンの定期接種では、1期・2期とも集団免疫を保つために95％以上の接種率が求められていますが、現状はその水準に届いていません（2023年度）[1]。更に、麻疹（はしか）の報告者数は2023年以降、増加しており2025年は第1～19週（5月23日時点）で119例の届出があり、2024年の同時期（21例）の5.7倍にのぼっています[2]。

接種率を向上させるためには、定期接種の声かけが重要であるとされています[3]。対象の患者さんに「【定期接種は】生涯で一度のチャンスである」ことをお伝えいただくことは、患者さんにとっても大きな安心につながり、感謝される機会にもなり、さらに医療機関としての信頼や評価の向上にもつながるのではないでしょうか。

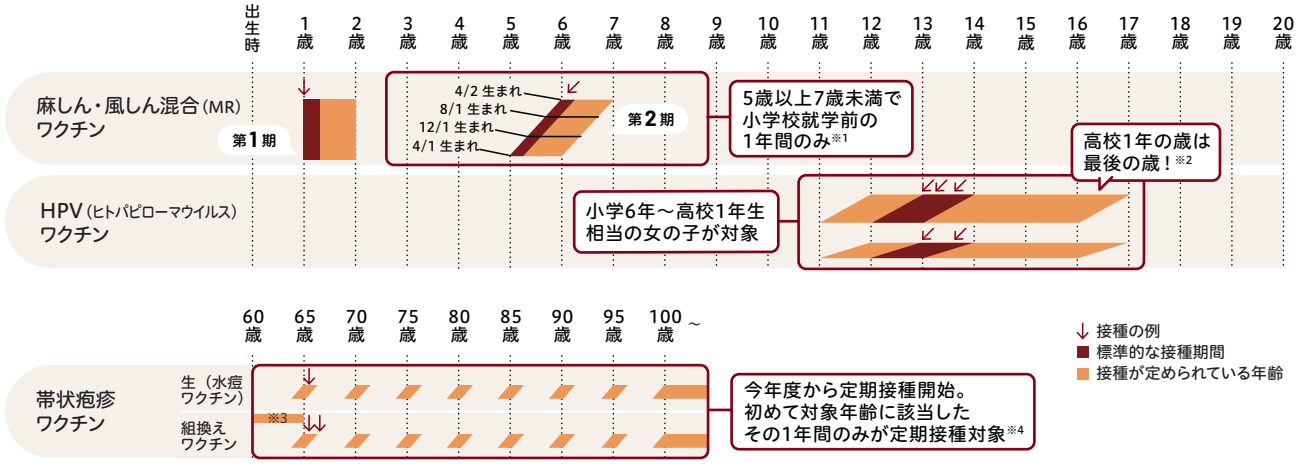
年明けはまさに声かけの好機です。先生やメディカルスタッフから、ぜひひと声かけてみませんか。

**定期接種として受けられる**
**チャンスがあるのは生涯に１回だけ！**
ぜひ、被接種者様にお声がけください

監修
医療法人社団嗣業の会
こどもとおとなのクリニック パウルーム
院長　黒木 春郎先生



## 3月が定期接種期限のワクチン




※1 2024年度に接種できなかった定期接種対象者に経過措置対応あり　※2 キャッチアップ接種：2024年度末に1回以上接種した1997-2008年度生まれは2026年3月末で終了　※3 60歳以上65歳未満の者であってヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有する者　※4 2025年度は経過措置として年度内に65・70・75・80・85・90・95・100歳以上になる者は帯状疱疹予防目的の定期接種として、弱毒生水痘ワクチン（1回）もしくは組換え帯状疱疹ワクチン（2回）を接種可能

国立健康危機管理研究機構（JIHS）　感染症情報提供サイト「日本の予防接種スケジュール」https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/topics/040/schedule.html（2025年8月閲覧）をもとに作成

1)「麻疹ワクチン接種率について」（国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト）（https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/45/535/article/030/index.html［2025年8月閲覧］）
2)「2025年におけるわが国の麻疹の発生動向」（国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト）https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/IASR/Vol46/545/545r01.html［2025年8月閲覧］）
3) Dai H, et al., Nature 597: 404-409, 2021

発行：一般財団法人阪大微生物病研究会／田辺ファーマ株式会社
本誌の掲載内容は、2025年10月作成時点のものです。
バックナンバーはこちら
https://www.biken.or.jp/medical/vaccine_square/
VACC0309AA(--)
2025年12月作成
（審）25X341